

スイートコーン (露地) (黒ボク土)

(土壤肥料)

本作目は、栄養生長から生殖生長に転換する型である。窒素の養分吸収パターンは山型を示し、収穫後の土壤の残存養分は比較的安く制御できる。ただし、生育後期におけるカリの吸収は著しく、これを確保する必要がある。リン酸に対しては、低～中領域に適應できる。また、無機養分欠乏に比較的敏感に反応することなどを考慮して施肥設計をたてる。

本作目の栽培においては、初期生育へのマルチ栽培の効果は顕著である。そのため、追肥重点型の施肥法は採用できず、全量基肥が原則となる。

(病害虫・雑草防除)

すす紋病等の地上部病害に対して耐病性品種を利用し、雨よけも有効である。アワノメイガ対策とし、雄穂を受粉完了後に除去し、果実を防虫ネットで覆い、若令幼虫が葉に生息しているうちに早期防除する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	土壤診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。	堆肥 1～2t/10a
化学肥料 低減技術	肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準以下 有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～50%
化学農薬 低減技術	育苗期に防虫ネットによる被覆を行う。 (対象：アブラムシ類など) 光反射マルチを利用する。 (対象：アブラムシ類、雑草など) 果実を防虫ネットで被覆する。 (対象：アワノメイガ) BT剤を利用する。 (対象：オオタバコガ)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	追肥を省略するために、全量基肥とする。そのため、溶脱防止、安全性(濃度障害防止)の両面からも肥効調節型肥料の施用は不可欠となる。収量確保のためだけではなく、溶脱防止のためにもマルチ(農PO系など)は必須となる。 水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意したきめ細かな施肥法をとる必要がある。 盛土などが行われている圃場では、その客入土壤の改良を行う。	

スイートコーン (施設) (黒ボク土)

〔土壌肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に転換する型である。窒素の養分吸収パターンは山型を示し、収穫後の土壌の残存養分は比較的安く制御できる。ただし、生育後期におけるカリの吸収は著しく、これを確保する必要がある。リン酸に対しては、低～中領域に適應できる。また、無機養分欠乏に比較的敏感に反応することなどを考慮して施肥設計をたてる。

栽培においては、初期生育へのマルチ栽培の効果は顕著である。そのため、追肥重点型の施肥法は採用できず、全量基肥が原則となる。

〔病害虫・雑草防除〕

すす紋病等の地上部病害に対して耐病性品種を利用する。アワノメイガ、アワヨトウなど施設内に侵入しないように開口部対策を徹底する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。	堆肥 1～2t/10a
化学肥料 低減技術	肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準 以下 有機質肥料併用の 場合には化学肥料 低減率20～50%
化学農薬 低減技術	開口部やサイドを防虫ネットで被覆する。 (対象：アワヨトウ、カメムシ類、アブラムシ類など) 光反射マルチを利用する。 (対象：アブラムシ類、雑草など) BT剤を利用する。 (対象：オオタバコガ) 果実を防虫網で被覆する。 (対象：アワノメイガ、カメムシ類)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	追肥を省略するために、全量基肥とする。そのため、溶脱防止、安全性(濃度障害防止)の両面からも肥効調節型肥料の施用は不可欠となる。 盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。	